

# 「君の椅子」の製作に込めた想いとこだわり ～旭川大学地域研究所開設45周年記念シンポジウムから～

株式会社匠工芸 桑原 義彦



2022年12月3日、「君の椅子」に込められたコンセプトから地域社会の未来を考える」と題するシンポジウムが旭川大学で開催されました。これは、地域に根ざす研究・教育を推進する旭川大学地域研究所の開設45周年を記念するものです。シンポジウムは、基調講演「～“時”をためて、正しく古くなる～「君の椅子」という名の旅（磯田憲一氏）」およびトークセッション（コーディネーター；旭川大学地域研究所長・大野剛志氏）から構成されていました。トークセッションの中では当協会常任理事であり、長年「君の椅子」プロジェクトに関わられてきた桑原氏から、表題に示した発表が行われました。発表内容には、桑原氏の50年余りにわたる家具づくりで培われてきたものづくりおよび起業に対する考え方が示されていて、たいへん含蓄深いものとなっています。ここに、桑原氏および旭川大学地域研究所のご了解を得て、その概要を紹介します。（文責：普及協会・菊地）

## ■「君の椅子」プロジェクトの意義

上川地域は良質な広葉樹が産出される地域であったため、戦後、旭川市は木工業界を育てることに力を入れてきました。

55年ほど前になりますが、私がまだ20～21歳であった時、技能五輪全国大会の家具部門で優勝し、第16回国際大会（1967年、スペイン・マドリード）に出場しました。このときの課題は化粧キャビネットの作製（写真1）で、銀メダルを獲得することができました。



写真1 化粧キャビネットの作製に取り組む

帰旭すると、旭川駅から市庁舎までのパレードが準備されていました（写真2）。旭川市および関連業界が、若手の技術力向上にいかにか力を入れていたのかを物語る一例ではないかと思います。



写真2 銀賞受賞を記念した  
旭川駅から旭川市役所までのパレード

時代が移り、大量生産から多品種少量生産に変わるなかで、旭川家具工業協同組合には少人数で工房的に家具作りに取り組む組合員が増えてきました。そのような中で、2006年にスタートした「君の椅子」の製作に、これら木工家の方々が関わりを持ってきたことはものづくりの上で意義深い、と感じています。

## ■若い人たちへ

故長原實氏が旭川家具工業組合の理事長職を務めておられた頃、同じく組合の役員であった私は、地域の中で若い人を育てていこう、そして物を作るだけではなく、しっかりとした考えを持って独立してもらおう、といったお話をしたことがあります。この話し合いを契機に、自分の考えをまとめ、資料を作成してきました。表1～表5（編注：表中の文字・表現等は発表スライドのまま）にその一部を示します。簡潔な表現になってはいますが、意のあるところを感じ取っていただければ、と思います。

**表1 クラフトマンシップと経営 1**

<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりは、感じること 人の生活を豊かにする創造</li> <li>ものづくりは、人との出会いが 物を作り、自分をつくり、人をつくる</li> <li>ものづくりは、無から有にする 最大の喜びを感じられるプロの仕事である</li> </ul>
---

**表2 クラフトマンシップと経営 2**

素材とデザインと手仕事	
<ul style="list-style-type: none"> <li>デザインの必要性</li> <li>地域の素材</li> <li>他と区別ができる暮らしの提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢と美と機能と強度</li> <li>地域の一番良い物、ある物</li> <li>匠工芸独自の提案</li> </ul>
地域の生き方とは	
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の地の利</li> <li>地域との共存</li> <li>地域と一緒に何ができるのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりの自然環境</li> <li>地域に求められる会社</li> <li>君のアイデアがほんものになる</li> </ul>

**表3 私のものづくりの考え方**

<p>技術について</p> <p>私の技術感覚とは、物体をつくる過程、即ち無から有に物を作り上げていく時、いかに早くきれいに正確又確実に行い、必要とする人々に喜びと感動を提供できるかである。ものづくりは、作り手が本当の意味で心豊かになってこそ、より良い物ができるはずである。</p>
<p>素材について</p> <p>たくさんある素材の中から、作る物に合った最適な素材を選び、どう表現し生かし使うか。物を作り上げていく上で、素材の長所短所の把握には最大の気配りを必要とする大事な条件である。</p>
<p>木をモチーフとしたものづくりについて</p> <p>木の質の美しさとナチュラル感を十分に引き出し、調和のあるデザインと機能性を融合させる。生な自然を、人間の美意識と技術で断ち切ると、そこに新しい自然の美がよみがえると思う。</p> <p>温かい木、温かい人が集まれば、温かい人の輪が広がり、心温まる社会環境も広がるはずである。</p> <p>木を生かすも殺すも、作り手の考え一つで大きく影響されるのも事実である。</p>

**表4 私が思う社長になるための5条件**

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.自分の健康に自信が持てるか</li> <li>2.孤独に耐えることができるか</li> <li>3.考え方をプラス思考にもてるか</li> <li>4.ストレスをためない心をもてるか</li> <li>5.いつでもどこでも眠ることができるか</li> </ol>
--

**表5 私が思う独立時の心構え5条件**

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.独立資金の調達、備えがあるか</li> <li>2.こまめに働くことができるか</li> <li>3.楽しみながら働く方法をいつでも考えられるか</li> <li>4.いかなる事もすべて自分への勉強として受け止める心をもてるか</li> <li>5.どんなに辛い時でも他人に優しくできる心をもてるか</li> </ol>
---

会社を立ち上げる、独立する、ということは簡単なことではありません。そして、独立すると多くの課題を抱えることになり、それに耐えることができずにはいけません。ですが、ものづくりに対する想いがあれば独立できます。そして、出会った課題に対する答えは自分で出し、自分の人生を自分で楽しんでほしい・・・そう願っています。

**■ふたたび、「君の椅子」について**

「君の椅子」プロジェクトでは、椅子といっしょにその年の制作に携わったデザイナー等からのメッセージも渡しています。渡された子供たちがそのメッセージを理解するのは小学校の上級生くらいまで成長したときのことになるでしょう。大きくなった子供たちが自分の名前が入った椅子を見て、そしてメッセージを読み返したなら、その子供に生きる力をもたらすだろう、そう思っています。

作り手は同じもの（製品）をたくさん作るのが仕事ですが、使う人はそのたくさんの中のひとつだけを選び、使います。それだからこそ、作り手はひとつの製品も手を抜かずに仕事をします。「君の椅子」には、作り手のこんな思いが込められています。

「君の椅子」プロジェクトで磯田氏と出会えたように、人との出会いが価値あるものづくりにつながっていきます。私は「君の椅子」プロジェクトに関われたことに、そして磯田氏といっしょに仕事をしてきたことに感謝しています。